

「学ぶチャンス」

札幌旭丘高等学校 一年 わたなべ なつみ
渡辺 夏海

「いらっしゃい、いらっしゃい!! ねえ、そこの人たち食べてかない?」
威勢のいい声と美味しそうなたこ焼きの香り。振り返れば、浴衣美人が勢ぞろい。かと思うとほの暗い部屋にぶら下がった“お化け屋敷”の看板からは何やら怪しい雰囲気漂い、体育館のステージではまばゆいばかりのスポットライトに照らされ、楽しそうに歌い踊る生徒達。そう、高校生活最大の行事、学校祭。勉強を忘れ、大好きな仲間達と一緒に心から楽しむ数日間。私はこの時間が本当に好きでたまらないのです。

しかし生徒会役員になったことで、楽しむだけでは終わらないのが現状だと知りました。学校祭終了時のゴミの量がハンパではないのです。私が通う旭丘高校の学校祭で一昨年出たゴミの量は、なんと42トン。これは、陸上で最大の哺乳動物であるアフリカ象が一頭約7トンですから、学校祭期間中だけで6頭ものアフリカ象が我が校から出て行った計算になります。となると札幌市内にある高校は約50校ですから、仮に全ての学校から42トンずつゴミが出たとすると、驚いたことに学校祭期間だけで300頭ものアフリカ象が出てくるわけです。しかもゴミの内容をみると、半端に残ってしまった発砲スチロール・ベニヤ板・ダンボール等まだまだ使えるものが多くありました。また、この“まだまだ使えるもの”を含む42トンのゴミ処理にかかった費用もハンパではありません。42トンのゴミ処理には約30万円もかかってしまうのです。それを聞いた時、私は一瞬自分の耳を疑いました。

そして考えたのです。大量のゴミと多くの金額が動く学校祭。どうせこんなにゴミが出てしまうのなら、この機会をゴミを考える絶好のチャンスにできないものだろうか。毎年ただ大量にゴミを出しての大騒ぎ。使えるものを捨てるのももったいないけれど、ゴミについて真剣に考えるこのチャンスを逃すのはあまりにももったいないのではないかと思ったのです。

では、学校祭で私達が学べることは何でしょうか。まずはすぐにできるけれど、おろそかにしがちなゴミの分別ができます。“まだまだ使えるもの”をきちんと分けるだけでもゴミの量は相当変わってくるのではないのでしょうか。次に、ゴミ減量の意識作りができると思います。いきなり「ゴミを減らそう!!」と言われても、なかなか実感が湧かないと行動に移

せないもの。今の現状を生徒達が理解し、このままではいけないという意識を持つことが最も重要だと思うのです。

具体的には展示スペース等を利用して、自分達が出しているゴミについて調べたことを発表したり、クイズ形式にすることで楽しみながらゴミに対する理解と呼びかけを行えるのではないかと思います。

さらに実際に行動にうつす方法もあります。例えば、食器洗浄機と食器を乗せた小型トラック『アラエール号』というものを利用する方法です。市内で飲食を伴うイベントが行われる際に、地域団体・学校・NPOなどに貸し出され、1日3,000円ほどの低料金で借りることができてしかもゴミも出ないという大変素晴らしいものです。これを利用すれば、衛生面からどうしても減らしやすく無駄になってしまう紙皿・割り箸を使わずに済むうえに経費も大幅に削減できます。まさに一石二鳥といえるでしょう。

それでもゴミというのは必ずと言っていいほど出てしまうもの。必要最低限にすることはできても、完璧にゼロ、というのは本当に難しいと思います。だからこそ、私達は考えるべきなのです。私達のゴミに対する意識が「ただ捨てるだけの要らないもの」から「何とか自分達で減らさなければならないもの」に変わった時からゴミの減量は始まるのだと私は思います。

目線を札幌市に広げれば、一年間に出されるゴミの量は約96万トン。アフリカ象に換算すると10万頭という数字です。そして処理費用に至っては年間381億円で、この金額は小学校を16校建てられるほどの金額だといいます。このままだと日本は、世界は、ゴミでいっぱいになってしまうのではないのでしょうか。私はそんなのは嫌です、未来は明るくクリーンであってほしい!!と心から願わずにはられません。私達の未来がゴミでいっぱいの未来にならないために、学生である今からできることを考えてみませんか。まずは学校祭から一緒に始めましょう。